

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0471200584
法人名	社会福祉法人登米市社会福祉協議会
事業所名	認知症高齢者グループホームほほえみ
所在地	宮城県登米市石越町南郷字新石沢前47番地3
自己評価作成日	平成14年11月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成26年12月 4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

行事(流しそうめん会、長寿を祝う会等)を通して家族の方だけではなく地域の方々にもGHに来ていただける機会を作ったり、地域のお祭りや行事に参加したりして家族や地域との繋がりを大切にしております。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然に恵まれ、日々の散歩を通して四季の移り変わりを感じている。敷地内に、運営する社会福祉協議会や姉妹施設があり、緊急時の連絡や入居者同士の交流もある。外出は、ドライブを兼ねて花見、長沼の船に乗っての蓮の花の見物、石越祭り、買い物、地域ボランティアのサロン参加等日常的に出掛けている。傾聴ボランティアの方が入居者の悩みを聞いたり、「昔話語り聞かせ」や「歌唱会」ボランティアの方々が来訪し入居者も話を聞いたり歌ったり楽しい一時を過ごしている。職員も外部研修に参加しスキルアップを図り、地域との交流を大切に笑顔で接することで、入居者も日々穏やかに過ごしている。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム ほほえみ)「ユニット名 」

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作り、常に誰でも見える場所に貼り、日々理念を読み全員で共有して実施に向け取り組んでいます。	職員は、常に入居者の想いを大切にしたい生活支援と、地域の交流を大切にしたい理念を共有し実施している。しかし、理念について振り返り話し合う機会を設けていない。	理念は、事業所が目指すサービスのあり方を示すものである。日々のケアを意識して取り組み、反映されているかの振り返りが大切である。1年に1回以上の振り返りをお願いしたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年「流しそうめん会」「長寿を祝う会」等行事時地域の方にも招待状を送り参加して頂いたり、地域の方から季節の野菜を頂いたり、日常的に交流を行っております。	町内会に加入し、地域のサロンや敬老会、石越祭り等に参加し地元の方々と交流を行っている。地域ボランティアの方々が来訪し、昔話を聞いたり歌や踊りを一緒にに行い、楽しい一時を過ごしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩の時に地域の方々と挨拶を交わしたり、行事等に地域の方々をご招待して、認知症の方と接する機会を増やしています。また、社協だより等を通じ日々の活動内容を広く周知しております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を行い、入居者様、ご家族様や地域の代表の方々にご意見・ご要望を頂きサービスの向上に取り入れています。	年6回開催し、市、包括支援センター職員が参加している。車いすの方を含む全員の外出状況や職員のスキルアップの外部研修の参加状況等、入居者・職員に関わる有意義な意見交換がなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市の長寿介護課の職員の方や包括支援センターの方に参加して頂いたり、市より委託のレスパイトの受け入れを行い良好な協力関係を築いています。	包括支援センターより相談を受け、介護認定を受けてない方の緊急時の短期宿泊を行っている。市の保健師より運営推進会議でノロウイルスの講話を聞く等連携が取れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみとし、昼間は全てのドアや窓を開錠しており、ベットの柵等いかなる身体拘束も行っておりません。	勉強会で禁止の対象となる行動を抑制したり、否定する言葉等、具体的な行為を職員も理解している。外出した時に一緒に出掛け見守りをし、足腰の弱い方には、ドライブで気分転換を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加したり、ミーティング時に自分たちのケアの見直しを行い常に虐待が見過ごされることの無いよう注意を払っております。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在該当者がいませんが、外部研修等で得た知識を職員全員で共有出来るようにミーティング時に勉強会を行っております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者と計画作成担当者2名で対応し、何度か自宅に足を運び、入居者や家族に対し十分な説明を行い、理解・納得をしていただいております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に第三者委員の説明を行ったり、面会や行事等でお会いする機会には必ず家族の方との情報交換を行っております。また、運営推進会議にも入居者の方や家族の方に参加して頂き意見・要望を伺っております。	酒、たばこを続けて欲しいとの家族の要望で、コップ一杯の晩酌と職員の見守りで喫煙している。毎月発行している行事の写真入りの「ほほえみ」だよりの送付は、遠方の家族より元気な姿が見られ嬉しいと好評である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ケアカンファ時にミーティングも行い職員全員で意見や提案を話し合っています。自分たちだけでは解決できない事案は本部にも相談し解決を図っている。	非常口へのスロープの設置や狭くなった下駄箱の増設、尿探りパッドの種類の変更等意見が反映されサービスの向上に活かされている。資格取得による給料への反映や、子育て職員への配慮も行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度が開始され、今まで以上には把握できるようになり、働きやすい職場を目指しております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会や講習会がある時には参加して頂き、職員全員がレベルアップ出来るように取り組んでおります。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宮城県のGH協や登米市の介護保険事業者連絡協議会に入会しているので他のGHや入所施設等との交流があり、情報交換を行う機会が増えてきていて、自分たちのサービスの質の向上に繋げている。		

2019/3/21

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前から何度か自宅に伺い、本人に納得して頂くよう会話の機会を設けたり、入居してからは気軽に話しやすい環境づくり(時には職員と2人だけの時間を設ける)を行っております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前から何度か自宅に伺い、家族の要望、相談を親身に聞く。また、入所後も話しやすい雰囲気作りを行い家族がどんな些細な事でも相談できる信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	始めの段階で家族の要望や出来る事、自分たちの出来る事、出来ない事を話し合い、本人にとって一番良いケアを行うために他のサービスや社協内の他の施設との協力体制を取ったケアを行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の方、職員も同じ家族の一員として、皆さんに役割を持っていただき出来る事を手伝っていただいております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事に参加して頂いたり、面会時には居室でゆっくりと一緒に過ごして頂いたり、毎月家族にはGHでの近況を「お便り」を通して連絡しております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力を頂き、本人が馴染みにしてきた美容院に出かけたり、ドライブ時に馴染みの場所や自宅の周辺を回ったり、馴染みのお店での買い物も行っております。	孫が友人を連れての来訪もある。毎月、家族と食事をしながら買い物をする方、正月や盆に、家族の迎えで自宅に帰る方、隣接の特養に知人に会いに行く方等関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の趣味や興味のあることを把握し、毎日の生活の中で入居者同士の橋渡しに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	自宅に帰られる方ではなく、利用終了後は皆さん、病院が施設入所となっており、病院に入院中は何度か様子を見に行くのみとなっております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に要望を聞き、ケアプランに取り込み実践しております。	入居者の思いは、散歩の時や居室でお茶を飲みながら聞いている。家に帰りたい、娘に会いたい等希望を聞き支援している。毎月傾聴ボランティアの方が来訪し悩み事等聞いてもらうことを楽しみにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前より家族や本人より情報を収集し、入居者の方の生活歴や思いを把握しケアに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の流れを把握し、毎日の記録を入居者ごとのケース記録や日誌に記録し、職員全員で情報の共有を行い現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常に入居者の方の話に耳を傾け、定期的に関にケアの見直しを職員全員で行い、家族の意見も聞き介護計画を作成している。	担当者が本人、家族の意向を聞きケアカンファレンスで話し合い、ケアプランを作成している。3ヶ月毎に見直し家族の同意を得ている。腸の疾患のある方には医師の指示で油物を控える等ケアプランに反映させた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態を個別記録に記入する事で、職員全員で情報を共有する事ができ、実践や介護計画の見直しに活かしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同じ敷地内にある、デイサービスや特養等の他の施設との連携が取れており、お互いの交流を通してサービスの多様化に取り組んでおります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事(敬老会)に参加したり、地域の方にボランティアに来ていただき歌や踊り等を楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前に本人や家族と話し合い、今まで通りのかかりつけ医の場合は家族で対応して頂き、協力医の場合はGHで対応できる事を説明し、選んでいただいております。また、家族対応の場合は日々の状態を受診前に説明しております。	かかりつけ医の受診は家族が対応し、協力医の受診は職員が同行し家族に報告している。結果はケース記録に記載し、職員で共有している。緊急時は、協力医の八嶋診療所で対応をして頂いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の変化で看護師の指示を仰ぎたいときは、隣接されている特養やデイサービスの看護師に相談したり、直ぐに病院受診を行い、入居者が適切な看護を受けれる様に支援しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、入居者の情報を医療機関に提供しています。また、出来る限り面会に行き面会時には病院関係者と情報交換等に努めております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は家族等と話し合いの機会を持ち、GHで可能な対応についての方針を示し、家族の協力を頂きながら対応しております。	重度化や看取りについての基本姿勢は、医療機関や隣接の特養への入所を支援している。重度化や終末期を迎えた場合の変化に応じ、家族と繰り返し話し合い事業所の出来る対応を説明し、段階的な合意を得るようにお願いしたい。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルは全職員が理解しており、訓練も避難訓練時にAEDの研修を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練時(夜間想定)の訓練も含む地域の方の協力を得て行っており、全職員が避難方法を熟知しております。	年2回実施し、区長や地域の住民が消火や見守り、誘導を担当し参加している。消防署より手摺りや段差に光るテープを貼るようアドバイスがあった。玄関に、入居者9名分のヘルメットを準備している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の入居者の方に合った声がけを行っていると共に排泄時や入浴時に介助に入る場合にはプライバシーを損ねないように対応しております。	呼びかけは主に「さん」付けで呼びかけている。失禁時は、プライバシーや羞恥心に配慮した声掛けを心掛けている。外出時は笑顔で鏡を見ながら化粧し、洋服も自分で選び出掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の方と日頃から信頼関係を築く努力をしていり、入居者様が話しやすい雰囲気や環境を心掛けております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人ひとりの生活リズムを把握し、その方のペースで穏やかにのんびりと生活して頂いております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日気持ちよく過ごしていただくために、自分で洋服等が選べない方や洗顔が出来ない方にはお手伝いをし、季節にあった身だしなみにして頂くようにお手伝いしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	特養の栄養士が作成した献立を基に、入居者の方々の希望に合わせた献立に替える工夫をしています。下ごしらえや後片付け等手伝って頂けることは職員と一緒にしております。	その日のメニューがリビングに掲示され、入居者の「頂きます」の声掛けで職員も一緒に会話を楽しみながらの食事風景である。敬老会には本人の希望を聞き赤飯、刺身、あんこ物等取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせ水分量や食事の摂取量に気をつけ十分な水分や栄養が摂取できるように努めております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きや入れ歯の洗浄を自分で出来る方は見守りで、介助が必要な方は職員が対応して行っております。また、歯科医による口腔ケアの指導や診察を行っていただいております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のチェック表を用いて個々の方の排泄のパターンを把握し、職員の声がけや誘導を行い、自立に向けて支援をおこなっております。	日中は、声掛け、歩行介助、パッドは本人の状態に合わせて使用し、トイレ誘導をしている。夜間は声掛けや鈴を鳴らす等個別に対応している。適切な声掛けでリハパンから布パンツに改善した方がいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動や水分を十分にとり頂く、毎朝牛乳を飲んで頂く等、個々に合わせた予防に取り組んでおります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の希望に合わせて入浴日や時間帯を決定しております。入浴が嫌いな方にも声がけをし、納得して頂ける様に話をしてから入浴して頂いております。	本人の意向に添って、一番風呂に入る方、熱い風呂に入る方、午前中に入る方等その方に合わせ、週2～3回の入浴支援をしている。拒む方には職員を替えたり、病院に行くとか声掛けに工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間や起床時間は本人の意思に任せております。お昼寝も本人の生活習慣として定着している方には、居室の温度管理等行っております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は常に服薬管理綴で入居者の方の薬について把握しており、服薬時には個々に手渡し、飲み込みを確認しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人ひとりに合った役割をもって頂いたり、煙草やお酒も楽しんで頂いたり、気分転換の散歩やドライブに出かけたりしていただいております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者一人ひとりの希望に沿い、外に散歩やドライブに出かけたり、地域のお祭り等にも参加しております。また、家族と協力しながら、通院時に買い物やドライブに出かけられるように支援しております。	天気の良い日は広い敷地内を車いすの方も一緒に散歩し、あずま屋でお茶を飲んで休憩をしている。ドライブで初詣、地元のお寺のしだれ桜、南方の菖蒲、長沼の船に乗っての蓮の花の見物など四季折々出掛け季節感を味わっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお小遣いをお預かりしており、外出時や買い物に出かけた時には本人がお金を持って買い物ができるように支援しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自らかける事が出来ない方が多いので家族と話したいと言われた時には職員が番号を押して渡しております。手紙もなかなか難しくせめて年賀状は職員がお手伝いをして書いていただいております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の清掃をこまめに行い、広い窓からは光や風を適度に取り入れ、エアコンで温度調整も行っております。	リビングは広々と明るく自然の陽光に満ち、掃除が行き届き、臭気や空気の淀みがない。壁に刺し子や塗り絵、行事の写真が飾られ、シクラメンの花が季節を感じる。ソファでテレビを見たりお茶を飲んだり過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間でも席の場所を工夫し気の合った方々で座って頂いたり、廊下や玄関内、外にソファや椅子を置き気の合った方々で話したり、独りになりたいときには独りになれる空間の工夫を行っております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具や道具を持って来ていただくようお願いしております。また、写真や塗り絵等を飾り本人が心地よく過ごされる工夫を行っております。	畳とフローリングの居室があり、それぞれ使い慣れた寝具やベッド、タンス、テーブル、椅子等持ち込んでいる。壁に家族の写真を貼り、温・湿度も適切な居室である。日記を書いたり自分のペースで過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーになっており、手すりも設置されております。トイレ等は大きな文字で表示しわかりやすくしております。		